

令和 6 年度持続的生産強化対策事業のうち茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進
(〇〇事業) の公募申請について

番 号
年 月 日

〇〇農政局長 殿
北海道にあつては、北海道農政事務所長
沖縄県にあつては、内閣府沖縄総合事務局長
農林水産省農産局長※¹ 殿

所 在 地
団 体 名
代表者名

このことについて、公募要領第 3 に基づき関係書類を添えて応募申請します。
なお、事業実施計画に関する担当者は下記のとおりです。

担当者氏名 :
電 話 :
F A X :
メールアドレス :

☐※² 本事業実施期間中に環境負荷低減に取り組みます。

交付申請書を提出する際に、「環境負荷低減チェックシート」を提出します。

- ※ 1 全国的な支援体制の整備事業を実施する場合、宛先は農林水産省農産局長宛とすること。
- ※ 2 チェックを付けて提出すること。なお、「環境負荷低減チェックシート」の提出については、GAP 認証を取得していれば不要とする。

環境負荷低減チェックシート(全国事業)

氏名（法人の場合は代表者名）

下記の各項目のうち、実態に応じて実際に取り組む内容について、□欄に✓を記入してください。
該当しない場合は、□欄には／（斜線）を記入してください。

	申請時 (します)	(1) 適正な施肥	自己点検 (しました)
①	☐	※農産物の調達を行う場合 環境負荷低減に配慮した農産物等の調達を検討	☐

	申請時 (します)	(2) 適正な防除	自己点検 (しました)
②	☐	※農産物の調達を行う場合 環境負荷低減に配慮した農産物等の調達を検討（再掲）	☐

	申請時 (します)	(3) エネルギーの節減	自己点検 (しました)
③	☐	オフィスや車両・機械等の電気・燃料の使用状況の記録・保存に努める	☐
④	☐	省エネを意識し、不必要・非効率なエネルギー消費をしないこと（照明、空調、ウォームビズ・クールビズ、燃費効率のよい機械の利用等）を検討	☐
⑤	☐	環境負荷低減に配慮した商品、原料等の調達を検討	☐

	申請時 (します)	(4) 悪臭及び害虫の発生防止	自己点検 (しました)
⑥	☐	※肥料・飼料等の製造を行う場合 悪臭・害虫の発生防止・低減に努める	☐

	申請時 (します)	(5) 廃棄物の発生抑制、 適正な循環的な利用及び適正な処分	自己点検 (しました)
⑦	☐	プラ等廃棄物の削減に努め、適正に処理	☐
⑧	☐	資源の再利用の検討	☐

	申請時 (します)	(6) 生物多様性への悪影響の防止	自己点検 (しました)
⑨	☐	※生物多様性への影響が想定される工事等を実施する場合生物多様性に配慮した事業実施に努める	☐
⑩	☐	※特定事業場である場合 排水処理に係る水質汚濁法の遵守	☐

	申請時 (します)	(7) 環境関係法令の遵守等	自己点検 (しました)
⑪	☐	みどりの食料システム戦略の理解	☐
⑫	☐	関係法令の遵守	☐
⑬	☐	環境配慮の取組方針の策定や研修の実施に努める	☐
⑭	☐	※機械等を扱う事業者の場合 機械等の適切な整備と管理の実施に努める	☐
⑮	☐	正しい知識に基づく作業安全に努める	☐

(注) 取り組んだ項目については、証拠書類等の作成及び保管(5年間) が必要です。ただし、証明する書類等を作成することが困難な取組を実施した場合においては、この限りではありません。

環境負荷低減チェックシート（地区事業）

下記の持続可能な農業生産に係る取組の各項目のうち、農業生産活動の実態に応じて実際に取り組む内容について、□欄に✓を記入してください。
該当しない場合は、□欄には／（斜線）を記入してください。

	申請時 (します)	（１）適正な施肥	自己点検 (しました)
①	☐	肥料の適正な保管	☐
②	☐	肥料の使用状況等の記録・保存に努める	☐
③	☐	作物特性やデータに基づく施肥設計を検討	☐
④	☐	有機物の適正な施用による土づくりを検討 (堆肥や有機質肥料、緑肥等の活用等)	☐

	申請時 (します)	（２）適正な防除	自己点検 (しました)
⑤	☐	農薬の適正な使用・保管	☐
⑥	☐	農薬の使用状況等の記録・保存	☐
⑦	☐	病害虫・雑草の発生状況を把握した上での防除要否及びタイミングの判断（発生予察情報の活用による防除等）	☐
⑧	☐	病害虫・雑草が発生しにくい生産条件の整備 (健全種苗の使用、病害虫の発生源除去等)	☐
⑨	☐	多様な防除方法（防除資材、使用方法）を活用した防除 (物理防除・生物防除の活用等)	☐

	申請時 (します)	（３）エネルギーの節減	自己点検 (しました)
⑩	☐	農機、ハウス等の電気・燃料の使用状況の記録・保存	☐
⑪	☐	温室効果ガスの排出削減に資する技術の導入 (省エネに留意した適切な農業機械・装置・車両の使用、農場由来の温室効果ガス削減、ほ場への炭素貯留等)	☐

	申請時 (します)	（４）悪臭及び害虫の発生防止	自己点検 (しました)
⑫	☐	悪臭・害虫の発生防止・低減に努める	☐

	申請時 (します)	（５）廃棄物の発生抑制、 適正な循環的な利用及び適正な処分	自己点検 (しました)
⑬	☐	廃棄物の削減や適正な処理（プラスチック等の資材の使用量又は排出量削減や廃棄の際の処分の適正化）	☐

	申請時 (します)	（６）生物多様性への悪影響の防止	自己点検 (しました)
⑭	☐	病害虫・雑草の発生状況を把握した上での防除要否及びタイミングの判断 (発生予察情報の活用による防除等)（再掲）	☐
⑮	☐	多様な防除方法（防除資材、使用方法）を活用した防除 (物理防除・生物防除の活用等)（再掲）	☐

	申請時 (します)	（７）環境関係法令の遵守等	自己点検 (しました)
⑯	☐	みどりの食料システム戦略の理解	☐
⑰	☐	関係法令の遵守	☐
⑱	☐	農業機械・装置・車両の適切な整備と管理の実施 (定期メンテナンス、点検記録作成等)	☐
⑲	☐	正しい知識に基づく農作業安全に配慮した適正な作業環境への改善（作業方法の改善や危険箇所の表示、保護具の着用、機械・器具の操作方法確認等）	☐

（注）取り組んだ項目については、証拠書類等の作成及び保管(5年間)が必要です。ただし、証明する書類等を作成することが困難な取組を実施した場合においては、この限りではありません。